

「子どものウソ泣き」

子どもにウソをつかれるのも、ウソ泣きされるのもどちらも親としては気になります。

子どもが発する「言葉でのウソ」は、自己防衛の為に、相手をだまそうとかではなく、自分のメンツを守りたいというのが一番の目的になります。

しかし、ウソ泣きをするのは「言葉のウソ」とは少し違います。

ウソ泣きは、「注目してもらおう事」が動機になっている事がほとんどです。

大人からみれば、涙も出ていないとか、こちらの様子を見ながら泣き声を作っていたりとバレバレですが、ウソ泣きは涙が出ないだけで、子どもの心の訴えである事は確かです。

それに対して、「泣き止みなさい！」とか「いつまで泣いているの！」と叱ってしまうのは逆効果。ここは、大人の知恵の見せどころ。

まず、明らかにウソ泣きしていると思ったら、「思い切り泣いたら良いよ」と一言、そして、「泣き止むまで、あっちで待っててあげるね」とその場を離れる事。

この離れるというのが効果的です。

いつまでもそばにいと「このまま泣いていたら優しくしてくれるかもしれない」と期待させるからです。

でも「かまってほしい」の気持ちから「ウソ泣き」という行動になっているので、そこは充足していく事が大切です。

「ウソ泣きしている時」にかまってあげるのではなく、普通の時間にスキンシップをとる事。「ウソ泣きは効果的だ」と思わせない事です。

抱っこしたり、一緒にお風呂に入ったり、ボディータッチを含んだ手遊びをする等、分かりやすい愛情伝達が効果的ですよ。